

市民の土木賞 市民が選ぶ土木の技術部門

特別賞

高齢者・障害者を含めたすべての人にやさしい阪急伊丹駅の誕生

(1)概要

阪急伊丹駅は、1995年1月に発生した阪神淡路大震災により全壊しましたが、1998年11月に復興を完了しました。震災復興にあたり国土交通省（交通エコロジー・モビリティ財団）より「アメニティターミナル整備事業」のモデル駅に選定され、「高齢者・障害者を含めたすべての人に優しい駅づくり」をテーマに1996年4月より着工までの約1年半の期間にわたり委員会にて議論し、計画・設計を推進しました。

委員会は交通エコロジー・モビリティ財団を事務局とし、学識経験者・移動制約者（高齢者・障害者）代表・国土交通省・兵庫県・伊丹市および当社で構成し、移動制約者の意見を計画の初期段階から取り入れ議論を展開しました。委員会では「これまでの駅施設の福祉的整備水準を超えるモデル駅実現」のため、移動制約者を含む利用者の要望を徹底把握し、実施可能な内容についてはできる限り計画に反映する方針で取り組みました。駅施設への要望内容は、以前よりお客様から寄せられていた要望を含め200項目以上にも及び、これらを肢体・視覚・聴覚等の障害者・高齢者等の属性別に分析するとともに、国土交通省ガイドライン・兵庫県福祉のまちづくり条例等の各種基準と照査し、具体計画に反映させる方針で検討を進めました。

(2)特徴的な施設

縦移動の徹底的バリアフリー化

- ・大型エレベーターを2基設置（15人乗り・21人乗りを並べて設置）
- ・上り・下りのエスカレーター
- ・2段手すり（階段部）幅広型自動改札機、障害者に配慮したトイレ 他視覚障害者の案内誘導システム
- ・音声ガイドシステム（杖式・FM電波小型発信機対応）
- ・点字案内板、音声付き点字案内板、視覚障害者誘導用ブロック、盲導鈴
- ・点滅型誘導音付避難口誘導灯 他
- その他
- ・行先案内表示器（LED表示）への列車入線・出発情報、ダイヤ乱れ等の異常時での情報案内表示機能の付加（聴覚障害者への配慮）
- ・いす付き公衆電話、ファクシミリ、授乳室、ベビーベッド 他



(3)その他

- ・駅の復興と同時に計画を進めた駅前広場は、伊丹市施行で2000年11月に竣工しました。駅および駅前広場ともに当社・伊丹市・当事者その他関係機関が協力しあい、当初からユニバーサルデザインを目指して、総合的により使いやすい駅の計画を進めました。
- ・竣工後も委員会にて事後評価を実施しました。



【業績のポイント】

- ・移動制約者（高齢者・障害者）当事者参画の委員会で駅施設の計画・設計を推進するという当時全国的に画期的な手法で事業を推進したこと。
- ・2000年の交通バリアフリー法施行の先駆的モデル駅となったこと。
- ・駅施設だけでなく駅前広場等の周辺施設についてもユニバーサルデザインを目指し、地元自治体と連携し一体的に整備を推進したこと。
- ・阪神淡路大震災からの地域復興のシンボルとなったこと。

対象事業	事業名	阪急伊丹駅の震災復興事業
	事業実施場所	兵庫県伊丹市
	事業主体	阪急電鉄株式会社
	工期	平成9年8月～平成10年11月